

Matt Bell

December 9, 2013

Saito-Abbott 先生

Japanese 301S-01

SL ファイナルレポート

**What I have done**

この学期、Japanese 301-SL というクラスを取り、世界的な教育や社会的な意識、equityなどを学びました。クラスの外では、5人のグループとして私たちは集まり、小学校や中学校で日本文化について教えました。私たちの日本文化レッスンプランを通して、global community and global awareness のような影響をもたらしたいです。私の役割はグループ2のリーダーとして毎週チームメンバーを集めたり、新しいレッスンプランを皆で考え、作成しました。そのうえ、チームグループメンバーにそれぞれの仕事を振り分けました。例えば、材料集めや情報集めなどをグループメンバーに振り分けました。子供の関心は長く続かないので、日本語や日本文化的な事を教える際、何か面白くて、楽しいレッスンを作るように心がけました。毎週のレッスン後に、日本語で「何を行い、うまくいった事、うまくいかなかった事、チャレンジなど」についての weekly reflection を書きました。

クラスでは、epistemology, social identities, stereotypes, global education, global citizenship, cross cultural ethics, creating a multicultural classroom のような話題について議論を交<sup>か</sup>わしました。議論を元に、クラスで話したことやリディングーなどについての Journal Reflection を書きました。

## **What I have learned from this experience**

私の経験を元に、教師そのものの大切さを学びました。教師の仕事は、とくに小学校では、とても大変です。教師の社会への献身は重要で、また教師の社会への貢献も大切だと思います。今年は何事か教える立場になり、先生の観点を学びました。

しかし、私たちの影響はほんの1学期に限られています。従って、この短い期間で子供たちにおおきな影響を与えることは難しいと思います。ほんのそれでも何もしないことよりずっとためになると思います

## **Outcomes 1 through 4**

***1. Self and Social Awareness: Students deepen their understanding and analysis of the social, cultural and civic aspects of their personal and professional identities.***

第1週と第2週の議論と記事を通して、“The Dynamic System of Power, Privilege, and Oppression” と “Are marginalized Students Included in Your Lessons?” の内容から epistemology と positionality と marginalization を学びました

Epistemology は人間知識の限界の哲学と理解で、今までの経験に基づいて形成されます。

Positionality とは、この世界にどこにいることです。Positionality は自分の経済地位や人類、年齢、国民、人生の経験などから見つけられます。この要素から、自分のと他のひとの epistemology を見極めることができます。

“The Dynamic System of Power, Privilege, and Oppression” という記事によって、成功したら、人々は自分の positionality と epistemology の限界を理解し、新しい経験や知らない人と接したいとい

った関心を生み出します。自分のと他の人の **positionality** と **epistemology** について考えることは自然には起こりません。しかし、違う文化を持った人と接する時、興味を持ち始め、それから、自分のと他の人の理解することができます。

**positionality** を考えた時、白人で、男で、23歳で、CSUMBで大学生として勉強しています。これらの要素はアメリカでは比較的優位に働くと言われ、また家族の支えもあって、私が大学に通っています。現在23歳なので卒業後は、就職活動をみなと同じようにするように期待されています。

Monterey Bay に来るまでは、私の出身地以外のカリフォルニア州についてはまったく知りませんでした。この5年の間に自分の **epistemology** は大きく変わりました。特に留学した経験により、自分の価値観と世界への理解が変わり、**epistemology** も新しくなりました。

***2. Service and Social Responsibility: Students deepen their understanding of the social responsibility of professionals in their field or discipline, and analyze how their professional activities and knowledge can contribute to greater long-term societal well-being.***

King Elementary の service learner として、また教師として、文化的な知識を伝えました。教師として、大きな責任と影響力を持ち、今までのレッスンを通して異文化の **positive** な そくめん 側面を教えることができました。アメリカは たしゅたよう 多種多様で特に異文化・異民族国家なので、この社会で異文化国民関係を尊敬することは非常に大切です。

私たちのゲームとレッスンは子供たちに **positive experiences** を与え、それは「一見人々は違って見えても、共通部分を持っている」という子どもたちの将来につながる じぞくかのう 持続可能であるもの

をコンセプトとしています。これはアメリカ内において、society well-being と尊敬を支え、社会と人間関係の距離を縮めるという希望を持っています。これを実現することが私たちのサービスマンとしての仕事であり、責任でした。

社会に対する私たち教師としての<sup>こうけん</sup>貢献：教師の貢献と義務は、ディシプリンの知識と理解を伝えることです。例えば、言語の書き方を学ぶ際に、初めから自分一人で文字を書けるようになることは不可能です。そのためには、教師は子供たちを座らせ、集中させ、言語の練習をさせます。教師の努力により、子供たちは社会が求める<sup>ひょうじゆん</sup>標準（読み書き）を満たすことができます。外国語や、数学、歴史などもこのコンセプトも当てはまります。教師の意義が果たされなければ、社会はうまく回らないでしょう。

### ***3. Community and Social Justice: Students evaluate how the actions of professionals and institutions in their field or discipline foster both equity and inequity in communities and society.***

Service site<sup>しゅうへん</sup>周辺の情報を集め、community scan というプロジェクトを行いました。King

Elementary は CSUMB から車で10分かかる場所にあり、その辺りには4種類の教会や住宅街がありました。デモグラフィックによると、大部分の家庭は Hispanic families であり、<sup>たようせい</sup>多様性は低いと思われま

す。Benefit は、子供たちがグループとコミュニティの中で文化的に仲間意識を感じるができます。例えば、同じ言語や同じ宗教を元に belongingness をコミュニティ内に見出だすことができます。しかしながら、この欠点はこの同文化地域が、アメリカの特徴である異文化社会から彼

らを遠ざけることです。よって、このコミュニティはアメリカの cultural melding pot 文化に矛盾しています。

しかし、彼らとは異なった文化を持つ私たちは、将来に彼らが異文化に触れた時にネガティブな態度は見せず、正しい (positive) 態度で交流することを促すことができます。

そして“Diversity and Inclusion of Sociopolitical Issues in Foreign Language Classrooms: An Exploratory Survey”という記事を読みました。この記事の中に「Does language acquisition lead to the desire/understanding of others’ cultures and way of life？」という質問がありました。その記事の中で扱<sup>あつか</sup>われている表と結果が、基本的な言語学習は、学習者に興味を与えませんと述べています。むしろ、一定の長さを学習した上級者は、比較的文化的なものに興味を示すと書かれています。

私の King Elementary での時間は少なかったのですが、子供たちが日本語を習得することは難しいと思います。しかしながら私たちが彼らに与えた衝撃は、将来に他の言語や文化の興味に繋がる可能性を生み出すでしょう。

**4. Multicultural Community Building/Civic Engagement: Students learn from and work responsively and inclusively with diverse individuals, groups and organizations to build more just, equitable, and sustainable communities.**

私は日本人とアメリカ人が混ざったグループで、Hispanic background の子供たちが大部分の King Elementary という学校で、このクラスの community service を行いました。

私のグループは異なる文化や言語を持つ人々が集まり、一つの目的に向けて協力しました。アジア人と白人からなる私たちのグループが、彼らの民族とは異なる民族性に触れ合う機会を与

えます。そしてこの私たちとの出会いと、日本文化や日本語のレッスンを通して、子供たちに racial equity の考えを紹介しました。

この outcome のために、“*Creating a Multicultural Classroom Environment Childhood Education*” という記事を読みました。この仕事の目的は：

1. 子供たちが相違点と類似点を認識する際の手助け
2. 社会においての協調性の促進。子供たちが相違点や類似点を受け入れるようになるので、社会により適応できる。

*Multicultural environmental classroom* を実現する方法

1. 教師の多文化に対する知識
2. 文化的に多様な *classroom environment* は他の文化への容認や尊敬を示す態度を意味する
3. 様々な考えをレッスンプランに組み込む能力と、*classroom management* の技術